

資質・能力	定義（※補足説明）	関わり
<p><b>愛着の形成</b></p>	<p><b>【愛着】</b>                      ●人と人との間に生じる持続的・情緒的な絆</p> <p>※子どもが不快に感じたり不安になったりした時、大人が子どもの発するサインに気付いて欲求を満たしてあげると、子どもは安心し、心が満たされていく。この繰り返しによって欲求を満たしてくれた人への信頼感が芽生え、情緒的な結びつきができて愛着関係が深まっていく。</p> <p>※人への基本的な信頼感を獲得するために欠かせない生涯を通した人格の活力源となる。</p>	<p>◆最も身近な大人が子どもの発する欲求（サイン）に応じて繰り返すこと。</p> <p>◆ゆったりとくつろげ、安心できる環境をつくる。</p>
<p><b>人に対する基本的信頼感の獲得</b></p>	<p><b>【基本的信頼感】</b>                      ●大切に養育され、愛情や甘えの要求を受容してくれる養育者への信頼を通して、自分という存在を肯定的に捉え、外界は信頼に値するという感覚</p> <p>※養育者との愛着関係が3歳頃までに十分に形成されていることが重要になる。</p> <p>※他者に対する信頼感と自己に対する信頼感の2つの種類に分けられる。</p>	<p>◆基本的には、「愛着の形成」と育む方法は同じ。最も身近な大人から無条件に愛されること・大切にされることを継続的に行う。</p> <p>◆たくさん笑顔を見せる、声をかける、スキンシップをとる。（子どもに安心感を与え大切にされていると抱けるような関わりをする。）</p>
<p><b>十分な自己発揮と他者の受容による自己肯定感の獲得</b></p>	<p><b>【自己肯定感】</b>                      ●自分はこれでいいんだと自分自身を肯定する気持ち</p> <p>※子どもは、親や保育者など身近な大人から受け入れられ、認められることで、安心して自分を出せるようになる。自己発揮をする過程で、自分自身のよさを自覚し、自己肯定感が育つ。</p>	<p>◆身近な大人が子どものありのままの姿をかけがえのない存在として受け止め、認めていく。</p> <p>◆よいところは積極的に褒め、叱るべきところでは叱るなど、大人が愛情をもって積極的に関わり続ける。（肯定する気持ちを言葉や態度で伝える。）</p> <p>◆褒めたり認めたりする時には、小さなことでもできたことを認め、他人との比較ではなくその子どもの以前と比べて成長したことを褒める。</p>
<p><b>基本的生活習慣の形成</b></p>	<p><b>【基本的生活習慣】</b>                      ●子どもが健やかに成長していく（丈夫でたくましい心と体の基礎をつくる）ために必要な、バランスのとれた食事・十分な睡眠・適度な運動などの生活習慣</p> <p>※子どもが一つ一つの生活行動の意味を確認し、必要感をもって行うことが大切。</p> <p>※生活に必要な行動が本当に子どもに身につくためには、自立心とともに自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性が育てられなければならない。自立心・自律性を育てることは、良いこと・悪いことに気づかせたり、社会生活上の決まりを守ろうとしたりする道徳性の芽生えにつながる。</p>	<p>◆基本的な欲求に対して、身近な大人が受け止め、温かく接する。子どもが心地よいと感じる経験を積み重ねていく。</p> <p>◆日常の基本的生活習慣に興味・関心を向け、自分でやろうとする子どもの思いやペースを尊重した丁寧な関わり（温かく見守ったり、励ましたり）をする。</p> <p>◆初めはうまくいかなくても、試行錯誤を重ねながら自分でできたときには、認めるなどして、達成感や心地よさを味わえるように関わる。</p> <p>◆家庭との情報交換を行い、子どもの家庭での生活経験も知り、一人一人の子どもの実情に応じた援助を行う。</p>
<p><b>道徳性や規範意識社会性の芽生え</b></p>	<p><b>【道徳性】</b>                      ●他の子どもと様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動しようとする気持ち</p> <p><b>【規範意識】</b>                      ●きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いをつけながら、きまりをつくったり、守ったりする意識</p> <p>※十分な自己発揮と他者の受容による自己肯定感を獲得していく体験を通して育まれていく。</p> <p>※道徳性や規範意識、社会性の芽生えのためには、遊びなどを通じた体験活動の充実を図ることが大事になる。</p>	<p>◆子ども同士の関わり合いのある遊びなど、体験活動を充実させる。</p> <p>◆子どもの気持ちを受け止め、相手の気持ちに気づかせたり、わからなければ一緒に考えたりするといった関わりを積み重ねていく。</p> <p>◆思いやりの心を育てるためには、大人が優しく思いやりをもって人と関わる姿を見せる。</p>